



photo: nawoko kato

外観。以前はこのデザインに做った校舎がつながり、街並みを形成していた

南山学園ライネルス館

南山町の街並みを形成する、学園始まりの校舎



修道院のような廊下

南山学園始まりの校舎

ライネルス館(旧南山中学校校舎)は、南山学園で最初に建てられた記念碑的な建物です。学園の創立者であるヨゼフ・ライネルス神父は、大正14年から土地区画整理が進められていた八事の丘陵地に教育の場を求め、用地の払い下げに成功しました。

南山の名前は、地名の南山(みなみやま)町を『詩経』に登場する南山(なんざん)と読むことで、堅固・長寿を意味する言葉にあやかってつけられました。

現在は創立者の名を冠した記念館として、学園のアーカイブセンターに使用されています。

ドイツ人建築家マックス・ヒンデル

ライネルスは校舎の設計を、親交のあったドイツ人建築家のマックス・ヒンデルに依頼しました。ヒンデルは、大正13年に来日して以降、札幌や横浜を拠点に多くの建物を設計した建築家で、中部圏にもカトリック新潟教会や多治見神言修道院などの作品を手掛けています。

校舎は、ゆるくカーブする道路に沿って南向きに教室を配し、北側に廊下を置く片廊下型です。



3階の企画展示室

道路に面した外観は、明るくすっきりとした表情を見せ、以前は同じデザインで左右に増築され、街並みを形成していました。詳細に見ていくと、壁面は黄土色の人造石洗い出し仕上げで大きな窓を配し、正面中央の玄関には4本の円柱が置かれています。また、ポーター状の柱型と屋上の三角の切れ込みのある手すり壁が、全体のデザインを巧みに統合しています。

館内に足を踏み入れると、漆喰と木調の二色で構成されたしつらえが、修道院のような雰囲気や漂わせています。入り口正面の幅の広い階段は屋上まで続き、踊り場には当時の学校には珍しかった水洗トイレがありました。この階段は以前、木製の美しい家具のように仕上げられていて、今も最上階にその姿を見ることが出来ます。

もうひとつのファサード

この建物にはもうひとつの隠れた見どころがあります。それは、グラウンドに面した反対側のファサードです。

丘を削平して整地したグラウンドは正面側より低く、建物の見え掛かりは地階を入れ4階建てになります。大胆に張り出した階段室

の最上部の壁面には、三角形と菱形の窓がうがたれて、賑やかな表情をつくっています。学生たちはこちら側をメインに入入りし、卒業アルバムの撮影スポットとしても人気があったそうです。

ヒンデルが建築を学んだ頃のドイツでは、ドイツ工作連盟や表現主義、新即物主義などが登場した近代建築の揺籃期にあたります。それらを横目に、実直に設計に向き合ったヒンデルの人柄と技量が、建物の控えめな美しさに滲み出ています。



グラウンド側のファサード

1932年(昭和7年)
鉄筋コンクリート造3階建て
「設計」マックス・ヒンデル
名古屋市長和区五軒家町6
<https://www.nanzan.ac.jp/archives/>
※開館時間平日午前10時〜午後4時(開覧室 展示室)